２０１８年度　留学体験レポート

廣川　義人

1.はじめに

私がこの留学を志望した動機は、「人生で約４か月も、母国以外の国に住む機会は滅多にないのではないか。」そんなことを大学一年生の頃から考えていたからです。このレポートではアメリカでの生活の様子、授業の様子、課外活動の様子について述べたいと思います。

2.アメリカでの生活

アメリカでの生活において、私が最も驚いたことは、人と人との距離が近く交流が盛んだったことです。その理由として、私はよくアメリカ人の友達に様々なイベントに誘ってもらったことが挙げられます。このことについて、私が「留学生」だからよく誘われていたということも否めません。しかし、そういったイベントは、基本的にアメリカの人々が日常的に行っているもので、そこでは「友達の友達」のような関係の人たちとの出会いが多く、友好関係が拡がっていきます。そのことによって私は、アメリカ人に限らず、様々な国籍の人たちと親しくなることができ、色んな経験をすることができました。

3.授業について

アメリカでの授業について良かったことは、授業中に色んな国の英語に触れることができたことです。というのは、授業が英語を学ぶためのクラスということもあり、アメリカ人は先生一人だけで、その他の生徒はアジア諸国の人々で構成されていました。そのことにより、アラビア語の巻き舌が強い英語など、様々な英語に触れることができました。

4.課外活動について

アメリカでの課外活動について、前述したとおり、私は多くの人たちと交流することができ、広い人間関係を築くことができました。そして、その友人たちとバスケットボールやサッカーなどのスポーツやキャンプやアイススケートなどのアクティビティを楽しめました。最初のうちは、うまく意思の疎通をとれないこともありました。しかし、彼らと時間を共有するうちにコミュニケーションにも慣れていき、最終的には友人としてのコミュニケーションを十分にとれるほどになりました。私はこのことから、コミュニケーションにおいて大切なことは、たとえ始めにスムーズに意思の疎通をとれなかったとしても、その後の努力しだいでどうにでもなるということを学びました。

5.最後に

私はこの留学を通し、英語の上達はもちろん、人間としての成長も感じられました。また、約 4 か月海外で生活するということは、決して楽しいことばかりでなく、投げ出したくなることもありますが、留学を成し遂げた今、振り返ってみると学ぶことだらけの、刺激的で有意義な期間だったと強く思います。最後に、アメリカで携わってくださった国際情報大学の先生方、学務課の職員さん、セントラルミズーリ大学の先生方、アメリカで時間を共にした友人、そして家族に感謝の言葉を贈りたいと思います。たくさんの援助、協力、本当にありがとうございました。